

農 政 課

1 概 況

管内の農業は、標高約 1,200m の八ヶ岳山麓から 760m の諏訪湖周辺に至る地域において営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜ではキャベツ、だいこん及びレタスが指定野菜に、セルリー、ブロッコリー及びスイートコーンが特定野菜の産地指定を受けている。特にセルリーは全国屈指の産地として発展してきている。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県内の 3 割弱の生産額を占める大産地として発展している。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

諏訪湖周辺地域は、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

（1）耕地面積

耕地面積は 6,027ha で、田は 3,319ha、畑 2,714ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 103a で県平均 102a を上回っている。

市町村名	耕地面積(ha)	田(ha)	畑(ha)	農家一戸当たり耕地面積(a)
岡谷市	227	79	148	44
諏訪市	630	411	219	64
茅野市	2,390	1,350	1,040	97
下諏訪町	50	25	25	34
富士見町	1,600	899	704	149
原村	1,130	555	578	169
合計	6,027	3,319	2,714	103
対前年比	98.6	98.6	99.2	—
県	106,700	52,800	54,000	102
対前年比(%)	99.4	99.4	99.6	—

注) 資料: 農林水産省耕地面積調査 (平成 30 年 2 月 19 日現在)

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2015 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業就業人口、基幹的農業従事者等

農家戸数は 5,829 戸で前回センサスの 92.7%となっており、うち専業農家は 905 戸で、専業農家率 15.5%は県の 16.4%を下回っている。

販売農家戸数は 2,758 戸、自給的農家戸数は 3,071 戸となっている。

農業就業人口は 4,579 人で前回センサスの 85.8%と減少しているが、販売農家の基幹的農業従事者は 3,984 人で、前回センサスの 91.1%にとどまっている。

(単位：戸、%、人)

市町村名	農 家 戸 数						農 業 就 業 人 口	基 幹 的 農 業 従 事 者	
	総農家数	販売農家				自給的農家			専業農家率
		専業	兼業		計				
			第1種	第2種					
岡谷市	512	33	3	43	79	433	6.4	151	116
諏訪市	982	120	30	253	403	579	12.2	626	553
茅野市	2,452	375	86	697	1,158	1,294	15.3	1,901	1,599
下諏訪町	146	8	1	11	20	126	5.5	35	33
富士見町	1,070	185	64	349	598	472	17.3	898	819
原村	667	184	81	235	500	167	27.6	968	864
合計	5,829	905	265	1,588	2,758	3,071	15.5	4,579	3,984
対比	92.7	107.6	59.4	84.6	87.2	98.2		85.8	91.1
県	104,812	17,241	6,008	28,536	51,785	53,027	16.4	82,935	73,483
対比	89.3	103.0	71.7	77.2	83.4	96.0		82.7	88.3

注) 資料：2015 年農業センサス

- ①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家
- ②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満でかつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家
- ③農業就業人口：1 年間に農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数が多い世帯員
- ④基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、1 年間の普段の主な状態が農業に従事していたもの
- ⑤対比：2010 年農業センサスとの比較

(3) 平成 30 年の気象と農業生産状況

平成 30 年は近年同様に気象変動が激しく気候が不安定で農作物栽培にとっては厳しい 1 年だった。1 月は気温の低い日が多かったが、2 月と 3 月は晴天の日が多く気温が高かったことにより、育苗等の生育が順調だった。6 月の梅雨入りは平年並みだったが、梅雨明けが平年より 22 日早く、高温と少雨の影響で 7 月中旬から 8 月にかけて干ばつとなったことから、農作物の出荷数量減少や品質低下を招いた。9 月以降は曇りや雨の日が多く月平均気温が低かったことや、台風 21 号、24 号の影響により、農作物、農業用施設に甚大な被害をもたらした。

果樹では、春先から 9 月前半まで高温により、りんご等の開花が早く生育も進んだ。9 月の台風による品質低下が若干あったが、全般的には良好であった。野菜も春先の定植も進み、出荷も早まった。7 月から 8 月の高温干ばつによりセルリー等に病虫害や生理障害の発生が多く、野菜全般の生産量が減少した。花きでは、前半は生育の前進や高温による品質低下や虫害が発生し、後半は病害の発生数量が減少し、需要最盛期に品薄となるものもみられた。

気象災害は、9 月 4 日に台風 21 号、9 月 30 日から 10 月 1 日にかけては台風 24 号が県内を通過し、ビニールハウス 100 棟に倒壊等の被害及び野菜や花きに倒伏・芯折れ被害が発生した。

農作物の生産状況は、水稻については、9 月の断続的な雨により刈遅れとなったものの作況指数は 101 となった。品質については、カメムシ類による着色米の発生があり 1 等米比率は 96% (12 月 5 日現在) であった。特産のセルリーについては、夏の高温による芯腐れ症の発生や、9 月の台風による病害の発生が多くなったことから、作柄は前年より低くなった。

(4) 農業等産出額 (H29)

(単位：ha、千万円、%)

種 類	作付面積	農業等産出額	構成比	備考	
農畜産物	米	2,011	305	19.7	
	麦・大豆・雑穀	442	8	0.5	
	果樹	90	20	1.3	
	野菜	1,640	626	40.4	
	花き	99	376	24.3	
	きのこ	-	6	0.4	
	畜産	-	100	6.5	
	養蚕・その他	-	0	0.0	
	計	4,282	1,441	93.0	
水産業	-	108	7.0		
合計	-	1,549	100.0		

注) 産出額は県農業産出額に基づく地域振興局推計値である。